

令和3年9月24日(金)
令和3年度第4回札幌市子ども・子育て会議
児童福祉部会 資料

ヤングケアラーの実態調査について

前回児童福祉部会での意見(論点整理)

- ①学校別集計の是非
- ②ホームルーム等を活用した学校での調査回答の是非

<札幌市の検討結果>

いずれも、子どもの権利を守る視点からのご意見であり、意見を反映して調査を実施します。

①学校別集計について

<部会からの主な意見>

- ◆小規模校では、回答者が特定される可能性がある
- ◆学校へのフィードバック自体が、個人特定につながる
- ◆学校が『ヤングケアラー存在の有無』の結果を誤認識する恐れ

<意見を受けての変更>

- ▶ 学校名を問う設問は削除
- ▶ 学校別集計は行わない

②ホームルーム等を活用した学校での調査

＜部会からの主な意見＞

- ◆調査回答に要する時間で、周囲の子からヤングケアラーであることが分かってしまう
- ◆その結果、調査回答を辞めてしまう恐れがある
- ◆中高生の時期は、『他の子どもと違うこと』が知られたくない時期
- ◆クラスの中で『浮くこと』が気になり、自分を守る可能性も
- ◆子どもが答えやすい方法による調査回答に真実がある

②ホームルーム等を活用した学校での調査回答について

<意見を受けての変更>

- ▶ ホームルーム等での一斉調査は行わず、一定の期間を設けて、子どものタイミングで回答する仕組みとします
- ▶ WEB環境がない場合や、筆記を希望される場合等を想定して、紙媒体の調査票を併用します
- ▶ 調査協力依頼文の配布時に、担任教諭から生徒に調査の趣旨を説明することにより、回答を促します。

生徒への調査協力依頼の流れ

- (1) 学校において、生徒へ調査協力依頼文を配布
- (2) 配布時に、学校から調査の趣旨等を説明
- (3) WEB環境にない生徒に、紙媒体の調査票を配布
- (4) 自宅において、パソコン・スマートフォン等から回答